

## **行政視察から見えた今後の課題**

### **視察先の市民の反応！！**

#### **【更新の方向が出ている施設の場合】**

更新の方向が出ている施設については、住民や関係者の理解が得やすかった。

#### **【廃止・統合の方向が出ている施設の場合】**

廃止・統合の方向が出ている施設については、住民や関係者そして地元選出議員なども反対することが多い。  
(総論賛成、各論反対)

## 【視察結果を踏まえた今後の議会の取組】

### ◎現状や今後の課題について市民との問題点の共有

公共施設白書を多くの市民に周知することが重要であり、そこから見える問題点を共有できる手法が必要であり、視察先でも問題となっていた。

### ◎コストを考えた施設の管理運営の在り方

- ・施設の長寿命化、外部委託による管理費の削減（佐賀県武雄市の図書館運営など）
- ・更新・統廃合検討時に施設の機能の複合化を積極的に検討する

### ◎今後の更新・統廃合の審議過程の分かりやすい市民説明

### ◎将来の利用料金負担について

市民一人当たりのサービスに掛かる負担額の妥当性について考える必要がある

### ◎身の丈にあった行政運営からみた将来像

将来の年齢別人口動態や財政計画および一人当たりの施設面積の妥当性

## ⑤ 平成26年度の行政視察について

### 【ＩＣＴ情報通信技術の取組み】

千葉県流山市

### 【シティーセールスについて】

神奈川県川崎市

### 【まちづくり景観条例について】

東京都荒川区

### 【公共施設マネジメントについて】

茨城県守谷市

**御清聴ありがとうございました！！**

**質疑は最後にお受けいたします**

# 文教厚生常任委員会報告

平成26年6月29日 議会報告会

## 文教厚生常任委員会の所管事業

福祉保健部、教育委員会に関する事業と予算

## 文教厚生常任委員会の委員

委員長:若井恵子

副委員長:相澤宗一

委員:齊木裕司

委員:砂塚定広

委員:若井洋一

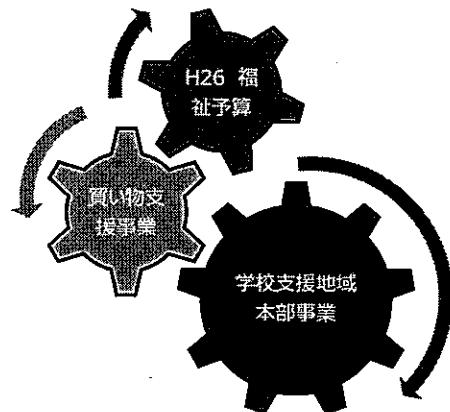
委員:飯塚寿之

委員:持田繁義

委員:荒城彦一

## 本日の報告内容

- 平成26年度 福祉予算の総括
- 買い物支援事業について
- 学校支援地域本部事業について



## 平成26年度 福祉予算の総括（重点事項）

- 人口減少社会における重要課題の認識について
- 地域医療連携の取り組み
- 医療介護の担い手不足への対応について
- 子どもの医療費助成の拡充
- 第6期介護保険事業計画の策定
- 買い物困難者の支援事業

## 委員からの質疑

- 人口の自然減が止まらない中、人口減少問題を福祉保健分野でどう関わっていくか  
⇒ 2025年に向けた基礎固めの年。福祉保健分野だけでなく教育分野、産業政策からも取り組む必要がある。  
人口減少問題の取り組みに市民参加と協働、市民力、地域力の活用で対策を講じていく。
- 医療介護の担い手不足への対応について  
⇒ 喫緊の課題である。人材確保のための予算拡充をするなど看護師不足解消のため鋭意努力する。

## 買い物支援事業について



高齢化や人口減少等を背景に日常の買い物に不便を感じている買い物弱者等が増加しています。

## 買い物支援事業について

24



自力で買い物をすることが困難な買い物困難者を対象に、シルバー人材センターの会員が買い物代行します。

元気な高齢者を体制的に整えており、またシルバー人材センターにおいても新規事業として取り組みたいとの希望がありました。

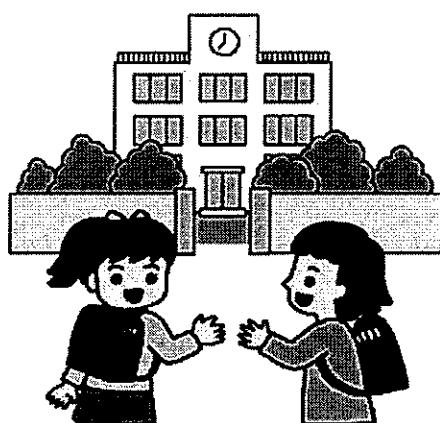
今年度は剣野地区、大洲地区がモデル地区となります。

予算措置：2百万円

## 委員からの質疑

- 買い物をする楽しみや閉じこもり傾向のあるかたの外出の機会が減少するというデメリットはないか
- 販売する側の協力を得るなど役割分担について商業労政分野と連携を図るべきではないか。
- 女性は比較的外出する機会があるが、男性は外出する機会が少なく細かな対策が必要
- 生活交通確保の施策や他の支援サービスとの活用などより良い買い物サービスになるよう研究、検討が必要  
⇒ 財源的な措置が必要であるため、費用対効果の高い事業が展開されるよう検討、実施して参りたい

## 学校支援地域本部事業について

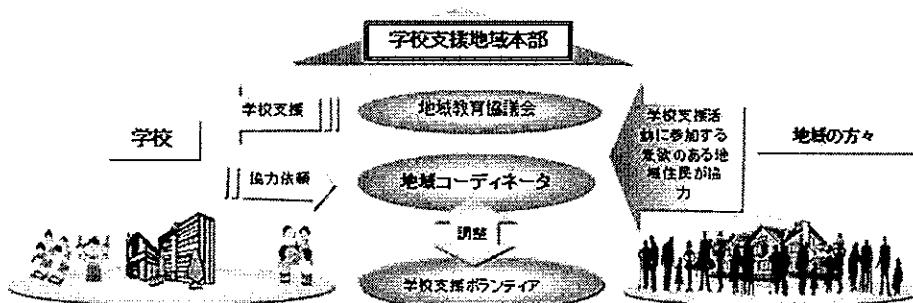


～地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整備～

コーディネーターを配置して地域ボランティアが学校支援活動を行なうもので、第一中学校区が実施していたものを12中学校区に拡充する事業です。

予算措置 307万円

学校を支援するボランティア活動を組織化し、より効率的に学校の支援を図ろうとするものです。

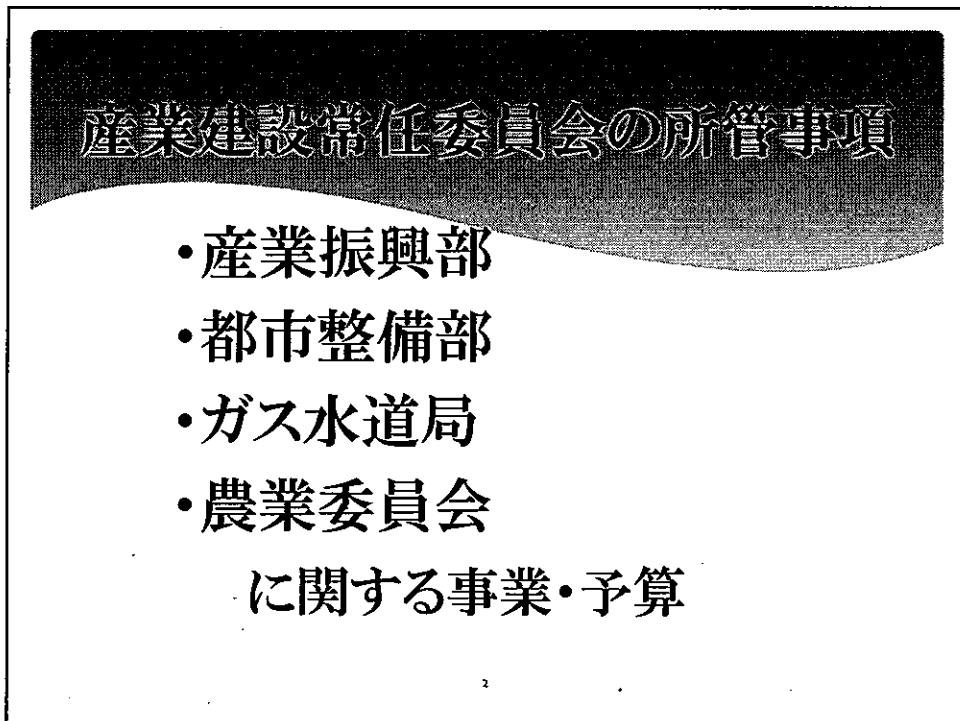
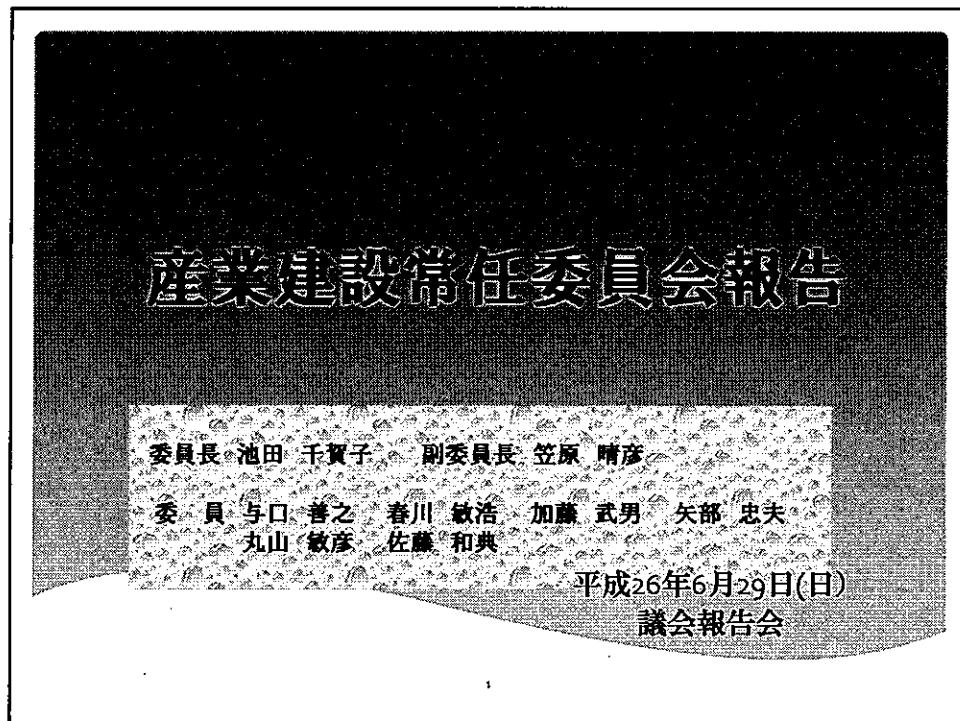


## 委員からの質疑

- 事業の趣旨、各種学校関連事業とのかかわりについて  
⇒ 学校の中だけで教育を進めることができ難くなっている。  
地域が関わりながら教育を進めることが重要。  
人間の基盤となる部分は学校、家庭、地域が連携しながらそれぞれの役割で  
子どもたちを育していくことがこれからも教育上、不可欠である。
- 第一中学校区での学校支援地域本部の取り組みと成果  
⇒ 第一中学校区では地域と学校を結ぶコーディネーターがつなぐ役目をすることが  
出来た。
- 12中学校区に拡充するに当たって必要な体制づくりについて  
⇒ 地域本部が主体となって取り組んでいくことが重要である。

ご清聴ありがとうございました。

文教厚生常任委員会



## 今日の報告内容

①「風の丘米山」に関すること

②買い物支援事業に関すること

③小水力発電に関すること

3

### 1 「風の丘米山」に関すること

#### (1) 経過

・平成24年度 米山山荘と子ども時代館の耐震診断を実施  
⇒ 耐震性に問題あり

・平成25年度 「風の丘米山活性化計画」策定

⇒米山山荘・コレクションビレッジ3館も道の駅としての商品  
力が低下 ⇒商品力強化の提案



4

## 1 「風の丘米山」に関すること

### (2) 平成26年度予算への計上予算

- ◆米山山荘とこども時代館の解体工事設計業務委託料  
(8,000千円)
- ◆米山山荘連絡橋補修工事費  
(設計業務委託と合わせて 335,000千円)
- ◆道の駅風の丘米山基本設計委託料(6,480千円)
- ◆コレクションビレッジの修繕料(58,000千円) など



5

## 1 「風の丘米山」に関すること

### (3) 委員からの質疑・意見や委員間の討議

- ・建設当時とは状況が違う。再び人が集まる仕組みを再び作るのは困難。これからの観光は街中に用意すべき。
- ・イベントを行うことによって、風の丘にある施設に入場する人も増えるのではないか。
- ・西の玄関口でもあるので、シティセールスにおいてもマイナスにならぬようにする必要がある。(有効な看板設置など)
- ・風の丘を前向きに活性化させていくということだが、二つの施設を解体したまま終わりということになると、コレビレ3館はどうなるのかということが不安。
- ・地元隣接施設との競争関係に陥らないようにするのは至難の業ではないか。

6

## 1 「風の丘米山」に関すること

### (4) 市担当部局からの答弁

- ・25年度に行った調査は、このエリアにポテンシャルがあるかどうかの調査。一定のポテンシャルがあるということが示された  
⇒できれば核となる部分は民間活力を入れた方が望ましい  
(市内でやっていただける方があれば、それがよい)
- ・「道の駅」はPR上あつた方が良いとなれば、要件を整える必要がある
- ・米山山荘・子どもの時代館は経年劣化  
⇒壊したとしたらどの位経費がかかるかの予算を計上した
- ・建物や経営状況から言うと、自然休養村事業としては区切りかと考えている
- ・コレクション館は休養村側に新たな機能が生まれることで一緒にやっていきたい

7

## 2 買い物支援事業に関すること

### (1) 経過

- ・高齢化の伸展に併せ、地域から小売店やスーパーマーケットが撤退し、買い物が困難な高齢者が増加  
←議会でも対策について取り上げる議員が多くいた
- ・平成22年度頃から府内で検討。  
事業者が行っている宅配サービス等、既存のサービスを一覧表にして周知

8

## 2 買い物支援事業に関すること

### (2) 平成26年度予算への計上予算

◆移動販売事業を支援する補助金(12,800千円)

◆買い物支援サービス事業(2,000千円)

※シルバー人材センター運営費等補助金の中で予算措置

## 2 買い物支援事業に関すること

### (3) 委員からの質疑・意見

- ・移動販売に対する補助事業と、シルバー人材センターへ補助する買い物支援事業とはどのような関係か
- ・移動販売支援は業者指定をするのか
- ・市民への周知はどのように行うのか
- ・移動販売を支援することによって、地域カバー率の向上を目指すのか、また移動販売の実態を検証するのか
- ・少数世帯しかない集落への移動販売がきちんと行われるか

## 2 買い物支援事業に関すること

### (4) 市担当部局からの答弁

- ・移動販売事業は中山間地域にとっての命綱という側面から中山間地域の買い物支援、一方、シルバー人材センターの買い物支援は町場の部分への支援というすみ分けである
- ・対象事業者は保健所に登録されている9事業者を考えている
- ・販売エリアの拡大は難しいであろう。現状維持が基本だと考えている
- ・周知については事業者個々に周知するとともに、新規参入もあると思うので一般的な周知も行いたい

## 3 小水力発電事業に関すること

### (1) 経過

- ・平成22年度新潟県が実施した「地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業」中の「小水力発電導入の可能性調査」で可能性が明らかに
- ・平成25年度小水力発電基本設計を実施(①直営発電で全量売電、②直営発電で自家消費、③民間企業との業務提携で全量売電、の3つで比較)  
⇒③民間企業との業務提携で全量売電が適当と判断
- ・平成26年度に事業者を公募したい(年間発電電力量180kw 1kwh当たり5.5円で年間約493万円の収入を見込む)

### 3 小水力発電事業に関すること

#### (2) 平成26年度予算への計上予算

##### ◆予算の計上は無



13

### 3 小水力発電事業に関すること

#### (3) 委員からの質疑・意見

- ・民間事業者との共同事業として行うということだが、収支が合わない心配はないか、仮に事業者が立ち行かなくなった場合にはどうするのか
- ・維持管理の責任の割合はどうなるのか
- ・公募に応募する事業者は何社くらい見込んでいるのか、市内事業者は応募する見込みか、または全国からの公募か
- ・発電機の規模や発電タイプ、発電に使用する水の量は
- ・上水道を使って小水力発電を行うことの課題をどのように解決したのか
- ・広く市民や視察者に視察してもらう必要があるのではないか
- ・一方セキュリティとの両立をはかる必要がある
- ・事業はどのようなスケジュールで進めるのか

14

### 3 小水力発電事業に関すること

#### (4) 市担当部局からの答弁

- ・(倒産というような心配がないように)選定において事業者の経営状況をよく見ていただきたい
- ・発電機自体事業者の財産となるので、維持管理も事業者が行うことになる
- ・公募に対する応募は、4~5社くらいか。本事業は、落差が100mもあり水圧が高いことなどから、市内事業者は募集の要件に入らないと考えている
- ・発電に使用する水は、谷根・赤岩ダムからくる3ルートのうちの1ルートを全量使用したい。
- ・発電タイプは、基本設計では検討しているが、公募の際に提案されるもの。水車の形式はポンプ逆転水車を考えている
- ・現在も3千人の見学者を受け入れているが、小水力発電の視察は大歓迎である。セキュリティは現在も、門を施錠しテレビカメラで監視しており同様に行いたい

平成26年6月29日

アルフォーレ・マルチホール  
(敬称略)

スクリーン

総務常任委員会

宮崎*	高橋*	三井田
村田	山本	
星野委員長		片山副委員長

\*印…マイク係ほか

司会

佐藤(敏)  
副議長

真貝  
議会改革  
特別委員長

霜田議長

文教厚生常任委員会

荒城	若井(洋)*	砂塚
飯塚	持田	斎木
若井(恵) 副委員長		相澤 副委員長

産業建設常任委員会

佐藤(和)*	加藤*	春川*
丸山	矢部	与口
池田委員長		笠原副委員長

